

県立高校入試改善検討委員会（第1回） 会議録

- 日時：令和3年7月13日（火）14時00分～16時00分
- 場所：岩手県公会堂21号室
- 出席者：佐々木修一 委員、浅沼道成 委員、鎌田英樹 委員、小山田紳也 委員、
今村久美 委員（オンライン参加）、梅津久仁宏 委員、千葉治 委員、
高橋正浩 委員、松葉覚 委員、橋場中士 委員、
岩館智子 委員（代理出席：川又康主 氏）、大柏良 委員、八重樫千晶 委員、
村上智加子 委員、千葉仁一 委員、山田市雄 委員
県教育委員会教育長 佐藤 博
県教育委員会事務局学校教育室 学校教育企画監 中川 寛敬
首席指導主事兼義務教育課長 三浦 隆
首席指導主事兼高校教育課長 須川 和紀
主任指導主事 高橋 直樹、菊地 健
指導主事 川原 恵理子、小原 博
- 傍聴者：報道6人

○ 会議の概要

1 開会（高橋 主任指導主事）

2 県教育委員会あいさつ（佐藤 教育長）

前回の県立高校入試改善検討委員会の提言を受けて、平成28年度入試で大幅な改善を行ってから5年が経過し、この間に「社会に開かれた教育課程」を理念とする新学習指導要領の開始、中学校及び部活動の在り方の変化、少子化の進行に伴う志願倍率の低下など、入試制度を取り巻く環境は大きく変化してきている。現行の入試制度を検証し、改善することを目的として、県立高校入試改善検討委員会を本年度から来年度にかけて設置することとした。委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきたい。

3 委員紹介（高橋 主任指導主事）

【委員名簿により委員及び事務局の紹介】

4 委員長及び副委員長の選出

[高橋 主任指導主事]

設置要綱の第5では、「委員長は委員の互選により選出する」こととなっている。どなたか案はあるか。事務局案を提示してよいか。

（異議なしの声）

それでは、委員長に佐々木委員を推薦したい。いかがか。

（異議なしの声）

異議なしということなので、拍手を持ってご承認いただきたい。

（拍手）

委員長は、佐々木委員に決定した。次に副委員長の選出について、事務局から説明する。

[須川 高校教育課長]

佐々木委員から、本会で委員長に承認の際は、副委員長には、浅沼委員にお願いしたいとの意向を事前にいただいている。いかがか。

(異議なしの声)

異議なしということなので、拍手を持ってご承認いただきたい。

(拍手)

副委員長は、浅沼委員に決定した。

5 議題

[高橋 主任指導主事]

設置要綱によると、「委員長が、会議の議長となる」こととなっている。佐々木委員長から挨拶をいただき、その後、議事の進行をお願いする。

[佐々木 委員長]

約1年間に渡って、岩手県の子どもたちへの最も影響が大きいともいえる県立高校入試の新しい在り方について一生懸命検討して参りたい。

子どもたちの学び環境の整備のため、お役に立てるように努めて参りたい。

(1) 設置要綱、現行の入試制度の概要について

[須川 高校教育課長]

【資料「県立高校入試改善検討委員会設置要綱」に基づき説明】

[菊地 主任指導主事]

【別冊資料「現行の入試制度の概要（資料1）」に基づき説明】

[浅沼 委員]

一般入試の選抜方法について、ABC選考があるが、実際にはどのように選抜を行うのか。

[菊地 主任指導主事]

【選考方法について説明】

(2) 岩手県立高等学校入学者選抜に関する調査結果について

[菊地 主任指導主事]

【別冊資料「岩手県立高等学校入学者選抜に関する調査の結果（資料2）」に基づき説明】

[千葉 委員]

実際に資料を見て、中学校からは様々な視点での具体的な意見が見えた。「変更すべき」の意見について説明があったが、「現在のままでよい」という積極的な意見はどうだったか。これからの時代にとっても今の制度のままでよいという意見はなかったか。

また、例えば推薦入試についての疑問点が示されているが、事務局としての評価はいかがか。今後の在り方についての検討材料として伺いたい。

[須川 高校教育課長]

先ほどの説明では、「変更すべき」の割合が20%を超えたところについて説明させていただいた。それ以外のところは「現在のままでよい」が主な意見であり、入試改善の論点のところでは改めて説明させていただきたい。

[梅津 委員]

アンケート結果の捉え方について、「変更すべき」の割合が20%を超えたところに着目したとい

うことだが、例えば別冊資料11ページの「1 入試日程」の「(1) 推薦入試の検査日」では、中学校では「変更すべき」が4.4%と低いが、「2 推薦入試」の(1)を見ると「変更すべき」が27.4%と高い。その内容は、「廃止又は自己推薦とすべき」が13人、「廃止すべき」が12人、「抜本的に検討すべき」が4人となっている。

調査の取り方として、それぞれの入試の在り方を聞く前に、日程について聞き取ったために「変更すべき」が4.4%と低かったと考える。入試について検討するならば入試日程にも影響が出てくると思われ、また、推薦入試の検討によっては、一般入試の検査日にも影響が出てくるだろう。例えば、推薦入試が廃止になった場合には、一般入試の検査日が現在のままでよいのかというような検討を行う必要があると思うので、今回の調査の「変更すべき」が20%超のところだけではなく、調査結果の背景に隠れている、各質問が関連した部分も含めて、論点を絞っていただきたい。

[須川 高校教育課長]

アンケート結果を精査し、論点を整理したい。

[佐々木 委員長]

別冊資料14ページの応募資格について、応募資格Bは、高校でどのように推薦基準として示しているのか。

[菊地 主任指導主事]

【別冊資料8ページの例により説明】

[佐々木 委員長]

応募資格Bで入学した生徒数について、資料はあるか。

[菊地 主任指導主事]

今はない。

[村上 委員]

別冊資料11ページにアンケート項目があるが、中学校、高校に聞いた内容はこれが全てか。

[須川 高校教育課長]

そのとおりである。

[村上 委員]

中学校の先生方からは調査書の指導が負担だとあるが、高校の入試を実施している立場の者からすると、入試の実施にかなり緊張を強いられる。英語のリスニングの時に救急車のサイレンが鳴らないか、ヘリコプターが飛ばないか、朝から時間通りにチャイムが鳴るかを土日に学校で確認するなど様々ある。センター試験のように英語リスニングテストで一人一人が聞く機材で実施できないかなど、運営に関する具体的な提案はなかったか。

[須川 高校教育課長]

アンケートには、中学校、高校のそれぞれの苦労や事情が書かれていた。参考にしながらよい入試のあり方を考えたい。

[菊地 主任指導主事]

各中学校、高校からは大きな視点から回答いただいた。校内での苦労や細かな点についても書かれていたものもある。

[小山田 委員]

全県の集計結果が示されたが、県北、県南、沿岸、県央と様々なブロックがあるが、ブロックごとにアンケート結果に何か差異はあるか。また、そのような分析は行っているか。

[須川 高校教育課長]

地域ごとに分けて集計は行っていないが、地域ごとの差異はなかった。

(3) 県立高校入試改善の論点（たたき台）について

[須川 高校教育課長]

【別冊資料「県立高校入試改善の論点（たたき台）（資料3）」に基づき説明】

[橋場 委員]

非常に整理された論点でいいと思う。先ほどのアンケートでは推薦入試の課題が多く指摘されていたので、論点の中に「推薦入試・一般入試のあり方をどのようにするか」というような形で推薦入試について明確に記載した方がメッセージ性があるのではないかと考える。

[須川 高校教育課長]

現在の推薦、一般入試とも合わせた形での検討を考えているところである。

[松葉 委員]

先ほどのアンケートについてだが、私自身もアンケートに答えた一人である。各問に少し答えにくさがあると感じたが、最後の「その他」の記述の部分は各中学校の考えや思いが書かれていると思う。この「その他」の記述の部分を振り返ることで、今後、議論を進めるための具体的な課題が見えたり、その課題を共有できたりするのではないかと感じる。資料に示されている「たたき台」には私たちが回答したことが還元されると思うのでよろしくお願ひしたい。

[須川 高校教育課長]

今回、この「たたき台」を提案するために、「その他」の回答も盛り込めるようにと考えて作ったところである。一人一人の意見をすべて反映させるというのはなかなか難しいと思うが、委員からの指摘のとおり、もう一度読み返し、少数意見も反映できるようにして参りたい。

[千葉 委員]

たたき台に、「1 生徒の多様な学びを評価するための入試制度及び日程について」とあり、これが入試改善の大きな観点と捉えた。別冊資料1ページの現行の入試制度には、「生徒一人ひとりが、その多様な能力・適性や意欲・関心に基づいて自分の進路希望を実現するため適切な高校が選択できること、また、各高校が特色づくりを進めてその特色にふさわしい生徒を選抜し生徒の成長を支援することという二つの基本的視点から、選抜方法の多様化」とある。

それから、先ほどの県の佐藤教育長の話の中では、前回の大きな入試改革からもう5年という話があった。この間、学習指導要領の改訂もあり、入試制度を見直さなければということだが、改善の趣旨は、別冊資料の23ページには明確に書かれていないのではないかと。

生徒の多様な考え方を評価するための制度改革を考えるのだと思うが、現行の入試制度で、どういふ生徒を各学校が選抜してきたのか、その結果どうなのか、という今の制度の成果と課題等を振り返り、それらも含めて、入試制度の改善についての具体的な視点、考えるための視点を示していただきたい。

これからの岩手、日本の人材育成について、学校の部活動が任意加入となっているときに推薦入試はどうかという意見もある。教員の働き方改革ということもある。推薦を続けるのは平等ではないという意見もある。様々な事柄を検討する視点や方向性を示していただけるとよりよいと思う。

[須川 高校教育課長]

委員からお話いただいたように、現行の入試制度の基本的視点が大前提となっている。この基本的視点に立ってこれまでも検討してきているところであり、新学習指導要領などを踏まえたうえで、さらに改善していきたいと考えている。より視点が明確になるような形となるように次回までに精査させていただきたい。

[千葉 委員]

現行の入試制度の視点によることは理解した。より分かりやすい形で示していただくようお願いしたい。

[山田 委員]

現行の入試制度を見ると、推薦入試は平成19年度から実施となっている。それ以前にも推薦入試があったが、その時期も含めて検証しないと、推薦入試について方向性を見出すことはできないのではないかと。

中学校がアンケートに書いた内容の中には、私立高校の部活動との関係や、部活動による公立高校の活性化が見られる。平成19年度から現行の推薦入試制度が復活したと思うのだが、その辺りをもう一度検証していただきたい。一度廃止になったのはなぜか、また、なぜ復活したのかといった点を検証してから、これからの推薦入試のあり方を提示していただきたい。

[須川 高校教育課長]

委員のお話のとおり、推薦入試は一度廃止になり、平成19年度から今の制度で実施されるようになった。現在の推薦入試は応募資格A、Bというように多様化しているが、導入当初のイメージが強く、「部活動の顕著な成績」という部分の印象だけで受け取られているところがあると思う。

生徒の多様な学びというものを部活動だけではなく、ボランティア活動、生徒会活動、中学校での総合的な学習の時間での活動など、いろいろな学びのことと考えているところだが、これまでの経緯を見ながら、名称も含めて内容も多様な学びを評価できるような仕組みにしていくことを考えていきたい。

[鎌田 委員]

推薦入試制度に関してだが、導入してから14～15年経つと思うが、推薦入試で合格し入学した生徒が入学後にどれだけの実績を残したのか、あるいは、一般入試で合格し入学した生徒とどう違っているのかといったデータはあるか。そういったデータがあれば、問題点等が見えてきて、制度の改正ということにつながっていくのではないかと。

[須川 高校教育課長]

推薦入試で入学した生徒については、例えば、部活動の実績をもとに入学した生徒がそのまま当該の部活動で活躍し、大学でもその競技を続けるということもある。このような例は運動部だけでなく文化部でも多いものと承知している。数については正確な数は把握していない。

推薦入試に合格し本人の特長を高校で活かしている生徒、一般入試で合格して高校に入ってから新たな活動に取り組みたいという生徒、そのそれぞれが高校で活躍し、進学する場合でも就職する場合でも卒業までに大きく成長していく生徒たちがいる。

推薦入試、一般入試、それぞれの入試を経て入学してきた生徒たちが、中学校までの学びを活かしながら高校でさらに学びを深めていっているものと捉えている。

[鎌田 委員]

一般であろうが推薦であろうが、高校生活で色々な思いを持って入学してくるのが普通で、本当は単純な選考方法がいいだろうと私は思っている。

例えば、スポーツ活動に特化している生徒でも、公立高校の場合は指導者が転勤すると、そのスポーツ活動が活発でなくなることがあると聞く。中学校時代に頑張ったことが、高校で活かさないというのは、もったいないと感じていることを申し上げた。

[佐々木 委員長]

事務局では、本日の委員会が出された意見を、次回以降の会議に反映した形で、委員会を開催するようにお願いしたい。

(4) その他

[浅沼 委員]

生徒の多様な学びを評価するということの難しさを味わっているのだと思う。それは大学においても同じで、例えば、AO入試の導入については評価について相当頭を悩ませた。多様な学びを評価するという目標を持って進めたのだが、制度を検討する中で、果たしてこれがやれるのか、実際に評価できるのかという根本的な理念の問題が出てきそうだと感じた。入試制度の改革は、面接、推薦入試といった個々の事柄で取り上げられることが多いが、実はもっと広い色々なところに影響を与える。ただ入試制度を変えればいいという小さな視点の発想ではなく、入試制度の変更が他方面にも大きく影響する、関連するという、大きな視点からも検討をしていくべきと考える。

[大柏 委員]

以前から高校入試については、そこまでやる必要あるのかと疑問に思う部分があった。中学校から高校に入るために一生懸命勉強して、一回燃え尽きてしまう。今、家には高校生、中学生、小学生がいて、入試に関係する年代である。今、国の制度も含めて、高校入試の大きな方向性をしっかり考えていかなければいけないのだと感じている。様々な方面のことが関わってくることであるので、大きな方向性を見据えていきたい。

[佐々木 委員長]

特に、推薦入試のところでは、何をどのように評価するかという問題もある。そこを避けては通れないことであり、調査書や面接のこともある。次回以降の話し合いの中で、テーマを絞っていききたい。

[須川 高校教育課長]

推薦入試、一般入試といった入試での評価については、生徒たちが小中学校で積み重ねてきたものや学びを適切に評価するためにはどういう観点で評価していくのかをはっきりさせていく必要があると考えている。現在の推薦入試の評価はどうしても部活動等の実績が中心だと生徒、保護者、県民の皆さんも捉えていると思うので、多様な学びについて、部活動の実績だけではなく、いろいろな評価の観点や視点を十分に取り入れながら検討したい。

他県で特色入試等の名称で一般入試とは別に行われている入試も参考にしながら考えていきたいと思う。評価の観点などが議論の中心になっていくと考えており、次回以降、資料として示していきたい。

6 その他（高橋 主任指導主事）

[菊地 主任指導主事]

【別冊資料「今後の予定（資料4）」について説明】

[梅津 委員]

別冊資料24ページの「今後の予定」について質問だが、令和4年6月～7月に「パブリックコメント実施」とある。委員会が事務局に提言を行うのは第5回が終わってからの令和4年9月となっているのだが、この委員会が開催されている途中でのパブリックコメントは何に対して行うものか。この入試改善検討委員会で検討が完結し、事務局に提言を行うのではないのか。

[須川 高校教育課長]

パブリックコメントの実施については、次回以降改めて予定を示したい。

5 閉会（高橋 主任指導主事）